

めぐみイエス・キリスト教会

2022年8月14日(日)第二主日礼拝
週報「通算第621号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌222「罪の深みに」 p. 336

【交読文】 No.22 詩篇第65篇 p. 896

【賛美Ⅱ】 新聖歌515「わが罪のために」 p. 819

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.13「主をほめ讃え続けよ」

【聖書朗読】 使徒の働き18章23節～28節(新約p. 273)

【礼拝説教】 《第三次伝道旅行とアポロ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

●ポイント1. 「愛弟子テモテ」とは？

※使徒の働き16章1節～2節「第二次伝道旅行において」 (新約p.267)

16:1 それからパウロはデルベに、そしてリステラに行った。すると、そこにテモテという弟子がいた。信者であるユダヤ人女性の子で、父親はギリシア人であった。

16:2 彼は、リステラとイコニオンの兄弟たちの間で評判の良い人であった。

●ポイント2. 「アポロ」とは？

■アポロ アレキサンドリヤ生れのユダヤ人。雄弁で、旧約聖書に通じていた。彼は、パウロがパレスチナを訪れている間に、エペソにやってきた。すでに「主の道の教えを受け」ていた彼は、そこで「霊に燃えて、イエ

スのことを正確に語り、また教えていたが」その理解には欠けがあった。ヨハネのバプテスマしか知らず、キリスト教のバプテスマに無知であったこと、また聖霊の注ぎも知らなかったことである。ヨハネのバプテスマしか知らないエペソの弟子たちは、アポロの伝道の結果と思われるが、彼らは聖霊に対して無知であった。会堂で大胆に語るアポロの話聞いたプリスキラとアクラは、問題に気づき、家に招いて、もっと正確にキリスト教信仰を教えた。

●ポイント3. アポロの間違いと、聖霊のバプテスマ

※使徒の働き1章4節～5節「主イエス様の約束から」(新約p.232上段)

1:4 使徒たちと一緒にいるとき、イエスは彼らにこう命じられた。「エルサレムを離れないで、わたしから聞いた父の約束を待ちなさい。

1:5 ヨハネは水でバプテスマを授けましたが、あなたがたは間もなく、聖霊によるバプテスマを授けられるからです。」

※使徒の働き1章8節「私の証人となります」(新約p.232下段)

1:8「しかし、聖霊があなたがたの上に臨むとき、あなたがたは力を受けます。そして、エルサレム、ユダヤとサマリアの全土、さらに地の果てまで、私の証人となります。」

※使徒の働き8章12節～17節「執事ピリポの伝道から」(新約p.248下段)

8:12 しかし人々は、ピリポが神の国とイエス・キリストの名について宣べ伝えたことを信じて、男も女もバプテスマを受けた。

8:13 シモン自身も信じてバプテスマを受けると、いつもピリポにつき従って、しるしと大いなる奇跡が行われるのを見ては驚いていた。

8:14 エルサレムにいる使徒たちは、サマリアの人々が神の言葉を受け入れたと聞いて、ペテロとヨハネを彼らのところに遣わした。

8:15 二人は下って行って、彼らが聖霊を受けるように祈った。

8:16 彼らは主イエスの名によってバプテスマを受けていただけで、聖霊はまだ、彼らのうちのだれにも下っていなかったからであった。

8:17 そこで二人が彼らの上に手を置くと、彼らは聖霊を受けた。

◎先週の礼拝メッセージの【エペソ伝道とアンティオキアへの帰還】

《パウロは、プリスキラとアキラを伴って、船でアジア州第一の都市エペソに渡りました。二人は天幕造りの支店を構える為に、パウロに同行したのです。実は、これも主のご計画の一部であって、この後、二人によって、エペソ教会の基礎が築かれて行くこととなります。

さて、パウロはプリスキラとアキラと別れて、一人会堂に入って、伝道します。ごく短い期間の働きでしたが、エペソにおいても、救われる人々が備えられていたのです。救われた人々は、パウロにエペソに留まることを願いますが、パウロは先を急いでいました。それは、ナジル人としての誓願が聞き届けられたゆえ、エルサレムにおいて、捧げ物をしなければならなかったからです。パウロは彼らに言います。『「神のみ心なら、またあなたがたの所に戻って来ます」』と。この言葉は、預言であって、パウロの第三次伝道旅行において実現します。

さて、パウロは、プリスキラとアキラをエペソに残し、船でカイサリアに向かいます。そして、エルサレムにおいて民数記に書かれた、「ナジル人への誓願」の捧げ物をします。それから、エルサレム教会へのあいさつと報告を終え、アンティオキアに戻って行きます。

そこには、バルナバ、シメオン、クレネ人ルキオやマナエンなどの仲間がいたからです。おそらく、シラスやテモテも戻っていたと思われます。私たちには、戻る場所があります。そこには、主イエスにある気心知れた兄弟姉妹がいるからです。私たちの本当の住まいは、この世ではなく、主が用意して下さる「天の御国」です。しかし、そこに凱旋するまでは、主が建てられた教会こそが、「御国」のひな形なのです。そこには、共に悲しみ、共に泣き、そして共に喜び、共に笑いあえる仲間がいます。それが教会です。そして、そこから再び遣わされて行くのです。教会とは、本来そのような場所なのです。》

お知らせ

※8月21日(日)の第三主日礼拝は、通常通り午前10時から行ないます。なお8月28日(日)の礼拝時間は、午後6時からと変更いたします。